

非毛沢東化の
流れに矛盾も

中国はこの十月一日に建国三十周年を迎えた。北京ではこれより前、九月二十五日から四日間、第十一期中央委第四回総会（四中全総）が開かれ、「四つの現代化」路線推進が改めて確認された。ところが、中央のこうした姿勢とは別に、昨今目立っているのが「反体制」運動とも映る「上訪」大衆の不気味なうねりである。これがもう一度揺り戻しとなるのか。以下は東京外語大中嶋嶺雄教授のズバリ診断である。

今日の中国の転換は、ある意味でもう既にあと戻りできないような大きなうねりとして今進んでいると思います。一口に言くと、文化大革命の路線から徹底的に決別し、いわゆる非毛沢東化、毛沢東政治からの脱却にあると言ってもいいと思います。しかし、こうした中国の転換はまた同時に非常に多くの矛盾を含んでいるといわなければなりません。

中国の素顔に迫る

路線大転換が持つ意味と
矛盾象徴する上訪現象

四人組をあれほど批判していながら、毛沢東思想そのものについて、依然として建前としてそれを堅持しなければならぬというところがもたらす矛盾だと思えます。しかし、文化大革命以降の中国の政治が、四人組だけによって行われたという風に考えることは決つてできないわけで、何といたしても毛沢東自身の政治的な関与、あるいは政治的責任というものが非常に重要であった。特に晩年の毛沢東家長体制ともいわれるような政治が、中国社会に大きなマインナスを残したことを知っていますから、公式に毛沢東思想を保持していても、民衆の気持ちは既に冷めていまして、非常に白けたも

のなっていることも疑うことはできません。私も去る六月中国を訪れましたが、北京放送は夜ごとに周恩来首相をたたえる詩の朗読を、美しい女性の声でやっていました。が、毛沢東をたたえるというふん囲気は、もはや全く見られなくなっています。

これらの問題は、今日の中国が進めつつある四つの現代化というもの、これが、これまたもう再び後に戻ることのできないような大きな転換の結果出てきた、新しい路線として定着しつつあるにもかかわらず、例えば四つの現代化が機械化をもたらすならば、それは省力化につながり、そしてそのこと



「四つの現代化」 は不可逆的潮流だ



勲章を胸に職を求めて上訪の旧兵士（WWP）

は中国に存在する膨大な余剰労働力人口、つまり有り余る労働力の存在と大きく矛盾するわけで、今日の中国に存在する大きな矛盾と云っていいと思います。

六千万下放青年の いらだち

こういう状況の中で、もう一つ中国の方向というものがすっきりしない。

例えば鄧小平が、昨年の後半から非常に政治の前面に活躍しているながら、今年の春から六月ぐらいまでしばらく後退していたこと。

このことは、明らかに鄧小平批判が党内に存在していて、その政治

的立場が一時的にせよ脅かされていたことを表しているわけです。

それが、鄧小平自身の将来の政治的不安にすぐつながることはないにせよ、依然として中国のリーダーシップの中にも問題があります。

最近でも、すべて派、つまり毛主席の言ったことはすべて正しく、毛主席の指示はすべて守らなければならぬという潮流が、依然として存在するということを、あれほど激しくしばしば党中央が強調しなければいけないということは、何といっても非毛沢東化に対する抵抗要因が残っているというところだろうと思います。

それは、文化大革命、まさに中国にとって未曾有の大衆運動、あるいは熱狂的な自己運動をほぼ十年間も繰り返してきた中国が、今回の転換によって急速に、スムーズに、過去のいわば政治的、社会的な潮流から転換するという風に考える方がおかしいわけです。

そういう状況の中で、最も大きな問題は、いわゆる下放知識青年

の問題であり、上訪大衆の問題だ
と思います。

下放知識青年、つまり文化大革命
以来農村に送られた知識青年、
いろいろ推計がありますが、約六
千万人も存在する。

これらの人たちは、今日の転換
によってある意味では、自分たち
は何故農村に住まなければいけな
かったのか、自分たちの将来はず
つと農村に終わるのかという不



大学に入れる若者は百人に一人だけ

安にとらわれればとらわれるほ
ど、かつて文化大革命に鼓舞され
た自らの過去と、今日の脱文革、
非毛沢東化状況との間の矛盾にい
ら立ち、悩まなければならぬわ
けです。

そして彼らは、今都市へ流れて
来ているわけですが、この問題は
中国にとって大きな社会問題にな
っていることは、既にしばしば報
じられているところです。

**えん罪晴らせ、職を！
切実な人権運動**

さて、その上訪大衆とは何か。
一口に言えば文化大革命の時期の
不当な処分を直してほしい、ある
意味では、えん罪を晴らしてほし
いとか、と同時に罪名を被せられ
たことによって職を失った彼ら
が、職を得たいというような非常
に切実な要求です。こういう文革
の後遺症として、特に社会の農村
の底辺にドロップアウトしている
層は、これまた下放知識青年と同
じくらしい規模で存在するのでは
ないかと思われれます。

これらの人たちが、今の政治の
転換というものを基本的には歓迎
しながらも、政治の上部構造だけ
が動いて、自分たちの状態は全く
改善されないとはいら立ち、不
満が、ついに直接北京に上京して、
自分たちの問題を訴えるという形
で現れてきている。

それが、この一月中旬、つまり
昨年十二月中旬の三中全会によっ
て四つの現代化の路線が提起さ
れ、党内で合意され、そして鄧小
平のリーダーシップが確立した直
後に起こっているということは、
非常に印象深いものがあると思
います。

上訪大衆を見てみますと、一月
の中旬に約百五十人が北京の中南
海、つまり國務院や党中央の指導
者たちがいる場所ですが、そこに
現れた。

私の訪中以後の動きとしては、
まず八月下旬、たまたまアメリカ
のモンデル副大統領の訪中に合
わせるような形で、四・五論壇と
いう、いわば反体制のグループが
デモ。

ところが九月上旬になります
と、再び上訪農民が北京に集ま
り、九月八日にはその中で二万人
が、官憲に連行されたという事件
が起こったわけです。

このころ北京には、十万人のい
わば上訪者、あるいは下放知識青
年の還流、つまりそういうフランス
トレーション（欲求不満）を持つ
た人たちが陳情に来ているとい
う状況があつて、かなり問題は深刻
であつたと思います。九月九日に
は果たせるかな七百人の上訪大衆
が、前日の二万人連行の動きに抗
議するような形で座り込んだり、
デモをしたりしているわけです。

こうした上訪大衆は、九月十三
日にはますますふくらんで、この
ときも数十人の上訪農民と官憲と
の間にトラブルがありました。が、
それを取り囲む形で三千人の大衆
が天安門広場や中南海の付近で座
り込んだりデモをしたということが
報じられています。

**宮僚・特権・迫害・
飢餓 四つの訴え**

こうした上訪大衆は、九月十三
日にはますますふくらんで、この
ときも数十人の上訪農民と官憲と
の間にトラブルがありました。が、
それを取り囲む形で三千人の大衆
が天安門広場や中南海の付近で座
り込んだりデモをしたということが
報じられています。

彼らが掲げたスローガンは、官僚主義、特権、迫害、飢餓、こういふものを打破せよということであって、いずれも非常に切実な問題を含んでいるのではないかと思えます。

これと前後して九月十一日には、約四百人の著者が、中国では大学入学試験に統一試験をするわけですが、それに合格したのに大学に入れないという不満を持ってデモを行っています。

しかも自分たちよりも点の悪い者が、情実で、あるいは幹部の子弟であるということとで北京大学に入っているのに、自分たちは入れない。

これはまた中国のもう一つの社会問題で、昨年来中国は大学入試のための統一試験をやるようになってきましたが、約三千万人に近い受験者のうち大学に入れるのは若者のうちの約百人に一人だけということです。日本の受験生も同じくらいいますけれど、ほぼ皆どこかの大学に入れる。

九月十八日になりますと、更に

北京市革命委員会へ五百人の陳情者が押しかけて、自分たちはえん罪のために職がない、しかも農村から北京へ戻って来ても戸籍がない、戸籍がないために食料の配給切符がない——と言っている。

深刻な失業問題 都市と農村の「落差」

今日の中国は、失業問題も非常に深刻で、約二千万人の失業者を抱えている。十万人もの陳情者が北京にいるということだけでも、非常に大きな問題だ。しかも人口圧力が増大の一途だから……。

さて、何故こういふふうに都市へ戻ってくるのか、ここにはまさに都市と農村の格差という大きな問題があるわけです。

文化大革命のときに毛沢東は、あるいは文革のリーダーたちは、都市と農村の格差をなくすために、そして肉体労働と頭脳労働の格差をなくすために「農村に定着せよ」ということを盛んに言いました。

しかし、中国の農村は依然とし

て生産性も低く、農村自体が都市の若者、つまり農民でない者をすぐに受け入れる態勢がない。彼らが来れば来るほど、それだけ食料も不足するというような状況があるわけで、農村に行っただけは、必ずしも歓迎されなかったのです。特に文革のはね上がり分子などは、そういう形で逆に農村に行っても冷たい目で見られた。

そもそも中国というのは、歴史的にも都市への集中という衝動があるわけ。というのも、農民から収奪することによって都市の文化が育っていたわけですから、何と云っても都市は彼らにとっては、あこがれの的なのです。

最近中国はいろいろな数字を発表し始めましたが、今回の全国人民代表大会などによって明らかにされた数字を比較してみると、驚くなかれ、都市と農村の収入の差というのは、十対一、十倍の開きがある。

給料そのものをとりますと、都市の労働者の給料というのは、平均四、五十元（一元＝約百四十七



日本生命保険相互会社

- 加入年齢は12～25歳のヤングだけ。
- 1万円の保険料、1,000万円の保障額。
- 5年後に50万円、15年後(満期時)に100万円のでっかいボーナス。



明日へタックル。
人生へタックル。

若い人たちのバックボーン

ニッセイ 青春の保険

(四)から、多いところは六十元ぐらゐですが、都市にいますと、いろいろな形で自分の収入につながるようなことがあるらしい。

これに対して、農民一人当たりの収入は年、六、七十元という恐るべき状態にある。もっとも現金収入ですが、あと現物給与がありますから、実際にはそんなに格差はないと思いますが、それほどまでに収入の面からの開きがあるわけで、こういうことはますます都



董国録主席(右)と鄧小平副首相

市へ都市へと彼らを驅り立てるわけです。

北京あたりでも、都市には人があふれていますし、育ち盛りの若者がぶらぶらしている姿が見られますけれど、これは全くある意味で驚くべきことで、彼らは働こうにも職がない。職がないから、例えば工場は三交代制をする。それは、仕事がたくさんあって忙しいから三交代制をするのではなくて、仕事が限られていながら膨大な人口を持つているから、彼らに少しづつ仕事を与えるためというわけです。

日和る官僚 ヤリ玉 にあがる特権階級

今回の上訪大衆が叫んでいるスローガンは、先ほどもあげたように官僚主義、特権、迫害、飢餓という四つ。非常に象徴的であり、今日の中国は何といつても「官僚主義」的な弊害が、非常にあちこちに出てきている。

そして特に中間的な意思決定を行うリーダーたちは、今の転換が

非常に早いだけに、そしてこの転換に対する抵抗要因があるだけに、中国の将来について確信が持てない。

確信が持てないから、積極的に物事を自分の責任で解決しようとする、つまり日和見主義が起るわけです。

その結果一般民衆は、中間的リーダーの日和見主義のために、何か決裁を求めてもそれが半年、一年あるいは何年かかっても決裁が下らないという問題があるわけです。

したがって、彼らにいくら訴えていってもダメだから、直接北京に上訴しようという形で陳情者が出てきているという問題をとつても、この官僚主義反対ということの切実さは、よくわかるような気がします。

それから、「特権」ですが、最近の「人民日報」などを見ると、こういう幹部の特権化が非常に問題になっています。

例えば幹部が日本に来て、良いものをたくさんもらったり買いか

めたという批判もたくさん出ています。特に幹部の子弟は大学に入れたり、下放知識青年として出された者も都市に住める、にもかかわらずそうでない者は住めないというような問題が非常に多いということが報じられているのです。

「迫害」という問題は、最近四人組時代にそうした迫害をした人たちが逮捕されたというニュースがありました。党中央委員候補が逮捕されたというニュースがありました。

上が文革で勢いのいいときに、末端においてこれらの人たちが大手を振るって迫害したと。にもかかわらず彼らは再びもとの地位にそのまま座っているとか、自分たちの受けた迫害の結末が決算されていないというような不満が、非常に多いのではないかと。

次に「飢餓」という問題は、中国にとつて非常に深刻ですが、中国の一人当たりの食糧生産というのは、年間約二百九十万トンの、これは殺物換算なのですが、そのほかに

いろんな食料が多様な形で供給される、日本のような社会とは違わけて、彼らにとって非常に少ない量であります。

この水準というの、一九五五年以来変わっていない。これは、今日中国の指導者の口から吐かれているわけで、ますます増大する人口とともに、やはり中国民衆は飢えて死ぬことはなくなつたにせよ、いつも空腹状態にあるということです。

こういふふうを考えますと、今の上訪農民の問題というのは、まさに中国の転換が持つ意味とその矛盾とを象徴的に表しているわけで、中国社会の素顔がこうした形で図らずものぞいているというふう

雑誌「北京の春」 後戻りへの警告だ

ただこういふ、いわば反体制派青年のデモが行われたり、上訪農民が物事を訴えるということが可能になつた社会というのは、確かに以前に比べて大きな発展だと思

います。

大きな転換期の中で、中国が開かれた社会になればなるほど、いろいろな価値観が多様化するのであつて、そうした価値観の多様化やあるいは民主化要求、人権という問題を含めていろいろな問題が出てきているだけに、これをいかにしてコントロールし、彼らの不満を解消していくかということ、非常に困難な問題ではないかと思ひます。特に失業問題は非常に深刻であつて、この問題をどういふふう

に解決していくかということが、当面の中国の大きな課題ではないか。

私が先に中国を訪れたときに驚いたことの一つは、乞食に出会つたということです。上海でも西安でも……せして彼らは、例えば上海の場合、黄浦江の海岸通りに「生活のためです。どうぞ皆さんお許しください」と書いて、子供を連れて小銭を求めている。これは、さつき言つたような都市の魅力がないということを表しているわ

けで、ここにも中国の苦惱する姿が見えるのではないかと。

こういう中国の苦惱を見つめながら、日本が日中関係を形成するといふ場合に、目先の利益にとらわれずに、もっと長期的に、中国社会を全体として生活水準を底上げするにはどういふ方法があるかが考えられなければいけないと思ひますが、まずその前に、こうした現実をよく直視することが必要ではないかと思ひます。

要するに今の中国の転換というのは、かなり本質的なものだと思ひます。中国が初めて自覚めたわけで、今までは毛沢東のリーダーシップのもとで、閉鎖的な社会の中で自己運動をやつていましたけれど、いろいろ気がついてみると、そのためにいかに中国が遅れていたかといふことを指導者が自覚してきていますから、再び毛沢

東型の、文革型の社会に戻るといふことは、もはやできない。
ですから、やがて今の華国鋒、鄧小平体制を逆

転させることによつて、再び四人組が出てくるということではなくて、大きな潮流はもう二度と戻れないポイント・オブ・ノーリターンだと思ひます。

紀元二〇〇〇年に、いわば四人組的リーダーが復活して、中国に大きな事件が起こるといふ幻想的な政治未来小説が「北京の春」といふ反体制雑誌の第五号に出て話題を呼んでいるのですが、これなどを見てみますと、「北京の春」といふのはむしろ鄧小平系統の意向をくんでいる思ふような雑誌ですから、彼らはやっぱり今の民主化を進め、鄧小平路線、非毛沢東路線をもっと徹底化しない限り、再びこういう時期が来るのではないかといふことに対する警告として、ああいう驚くべき未来小説を書いたのではないかと、こう思ひます。

愛と健康を永遠に

健康食品

淨新

発売元 株式会社 淨新 京都市八人町二丁目二番 電話 0008

↑
T
R
E
N
D
↓

総選挙開票速報.....	14
危うしカーター大統領、スタッフの士気低下17	
資金需要期に日銀が厳しい窓口規制.....	18
阿蘇爆発で火口めぐりに議論百出.....	20
厚生省が覚せい剤患者摘発に新兵器.....	21

★アイスホッケー日本リーグ20日開幕
日本で燃える外人スケツトたち

銀座
安いばかりが能じやない
「賈て来い」と胸を張る

◆酒と文学そぞろ歩き◆
ただ見る江心に秋月の白きを!

新々海外旅行ガイド 岡橋葉子
ソ連はチャーター便で(モスクワI)

キプロス紛争から五年
躍進目覚ましい「太陽の島」

ニユーススポットスタート問近の
自動車電話に希望者殺到!

インサイト
ストーリー

奇妙な共産国家・東独の
倒錯ぶり

「四つの現代化」は不可逆的潮流だ
中国

借り着脱ぐ大平首相の実像と虚像追求

110 100 88 68 52 42

好評連載
シンデレラの葬送 (3) 小林久三 45
空港ゲートN05 (7) 横田 実 76

■東洋のベニス 堺.....	3
●西ドイツファッションは春夏先取り.....	7
■日本酒タワー.....	10
■なでぎり時評<結核>.....	江間守一 36
■出離後初の純文学“比叡”.....	56
●現代養生訓<人生は40から>.....	杉 靖三郎 83
■人気のふとんは密くて軽い合織わた.....	84
●良重、久里子を“新派”大スターに.....	94
□イメージチェンジへ社名変更ブーム.....	108
■スポーツロックてぶっとほせ!!.....	115

〈マンガ〉
〈分かりやすい年金〉..... 72
〈今週のハイ色ライト〉6
〈表紙〉モデル 大野麻美子さん 撮影/小野寺義一
〈SLが走る町・山口〉59
〈ふるさとではいま〉..... 92
〈株式でもうける実戦術〉15

38 30 24

80年代に向け政局激動へ

自民大敗

与野伯仲より鮮烈に

総選挙・国民の審判

気に緊迫した状況を迎えている。

前回五十一年暮れの総選挙で「公認候補当選二百四十九」という結果を直接のきっかけとして退陣に追い込まれた三木元首相は、八日の記者会見で「選挙は総理が決意したものであり、

数割れに強い衝撃を受けながらも、大平執行部に対する責任追及に勢いづいており、党内は一

ほどきわどく、公民中道二党、共産党の勢力拡大という野党の新しい力関係とも相まって、情勢は予断を許さない。

総選挙における自民党の予想外の大打撃によって、政局は一気に混乱の様相を強めることになった。当初、公認だけでは過半数割れという事態に、党内には三木元首相が「政治責任のケジメ」を迫るなど早くも大平退陣要求の声も出ており、首相は首班指名、組閣へ苦しい対応を迫られている。大平首相としてはいずれにせよ退陣は考ええず、「党の危機」に際しての挙党体制を呼びかけて、衆院議長、幹事長など一連の人事や政策面で非主流に大幅譲歩することによって党内協力をとりつけ、首班指名の「関門」を切り抜ける構えだ。

しかし与野党伯仲のもとで、状況は党内の足場固めが寸分でも狂えば首班指名が困難になる

大平首相は政局安定のための「安定多数」確保を今回の解散・総選挙の大義名分に掲げたが、三木、福田、中曽根の非主流三派の反対を押し切って解散を断行したことから、党内にき裂を深めた。それが、「安定多数」の二百七十一議席どころか公認候補だけでは過半数にも達しないという最悪の結果となったことで、大平執行部の苦悩の色は濃く、今後の政局運営に有効な対応を見いだし得ないというのが実情だ。

一方、非主流は、再度の過半



議席を大幅に伸ばした共産党(上)と民社党

週刊時事

10-20

130円



80年代へ政治地図固まる 総選挙開票速報

建国30年中国”上訪現象を透析

東大教授
中嶋嶺雄

西野のついで大井を巡りし横濱のカーン(横野)経
たて見る秋月の白さは 酒と女流北光の赤サ
氷上(國體)の闘争 ホッケー 闘争